

## 町会施設を活用し、「住民力」が守る地域ブランド （田園調布グリーンコミュニティ 東京都大田区）

### 1. 町会施設に事務所をかまえプログラム展開

皆さん、それが東京のどこにあるかは知らなくとも、「田園調布」という地名は聞いたことがありますね？ 日本の冠たる高級住宅街田園調布で、「田園調布親睦会館」という拠点を持って活動しているのが、<田園調布グリーンコミュニティ>です。

しかもここは「田園調布親睦会」という町会が所有している会館なのです！ 売ったらいくらになるのか？！という不届きな感想を抱くのは私だけではありますまい。

田園調布グリーンコミュニティ（通称：デングリ、以下、デングリ）は、この親睦会館の一室に事務所を構え、5部屋ある洋間・和室の空いている時間を使って、シニア健康体操や親子フィットネスなどのプログラムを展開しています。事務所はそれまで物置になっていた所を片付け、パソコンやコピー機・机などを置きました。



### 2. 住民間の話し合いで柔軟に利用できるメリット

クラブが町会施設を使用することについては、デングリ会長であり親睦会副会長でもある方が、「デングリはスポーツによって地域を活性化する団体である！」と他の役員の方々に説得してくださったそうです。

さらに、デングリ運営委員の一人がこの会館の維持管理を担当する事務員となり、町会との万全な協力体制を敷くことによって、施設使用料などの優遇を受けています。このあたりが行政所有の施設を利用するのとは異なり、住民間の話し合いで融通を利かせることができるメリットです。



シニア健康体操



親子フィットネス

### 3. 住民の理想と誇り、日々の活動によって生まれる「地域ブランド」

さて、そもそもなぜ、田園調布に町会が所有する住民会館が存在するのでしょうか？

その理由は、田園調布開発の歴史をさかのぼります。渋沢栄一によって設立された「田園都市株式会社」が開発の役割を終え、昭和3年目黒蒲田電鉄（後の東急電鉄）に吸収合併された時、一部の資産が町会に寄贈されました。

その後、住民たちは渋沢が目指した「緑豊かな公園都市～ガーデンシティ」という住環境を維持すべく、独自の建築条件の設定や夜間パトロールなど、住民自治に積極的な役割を果たしてきました。

クラブが設立時に選んだ「グリーンコミュニティ」という、「スポーツ」が入らない名称にもこの「住民が望む地域のありかた」が反映されています。

「田園調布」は決して「作られた」ブランドではありません。人々がここに住むことに誇りを持ち、守ってきた地域ブランドなのです。

右上のロゴマークは、田園調布在住で著名なイラストレーター葉祥明さんが、好意でデングリのために作ってくれたものです。「グリーンコミュニティ」の名前にふさわしい爽やかで軽やかなイメージは、おしゃれな「地域ブランド」の構築を意識してのものです。

■ロゴ ジェイクくん使用 白地の場合



クラブのロゴマーク。様々な用途で使えるように各種作成。

#### 4. 住みよい地域を支えるクラブとして

これからのデングリは、これまで親睦会館を利用してきた団体とコラボする事業や、音楽事業など、いっそう幅を広げて事業を展開していく予定です。

会館以外でも、小学校の体育館や校庭を利用し、アマラオ（元FC東京）や水沼貴史（元日本代表）などのトップアスリートを指導者に招いたサッカークリニックなど、地域ブランドのさらなるアップに貢献する事業も行っています。

住みよい地域を作るのは個々の住民の力、それを支えるのはクラブという良い循環が、コミュニティを次の世代へ受け渡していくということを実感させてくれる田園調布グリーンコミュニティでした。

がんばれ、デングリ！

（土屋由紀 東京都クラブ育成アドバイザー）

#### 【田園調布グリーンコミュニティ プロフィール】

- 1. 設立** 設立年月日：平成 23 年 3 月 5 日  
経緯：大田区スポーツ推進委員・青少年対策委員など地域の有志が中心となり設立。
- 2. 地域** 人口：約 69,690 人（平成 23 年 10 月 1 日現在）
- 3. クラブ** 会員数：700 名（平成 23 年度現在） 予算規模：1,400 万円
- 4. 連絡先** 〒353-0003 東京都大田区田園調布 2-20-15 田園調布親睦会館内  
TEL：03-6715-6866 FAX：03-6715-6876  
URL：[www.den-green.com](http://www.den-green.com)

関連リンク：土屋由紀氏プロフィール

<http://www.japan-sports.or.jp/local/outline/adviser/13.html>